



自己紹介

大淵由貴（おおぶちゆき）1988年東京都江戸川区出身。千葉大学法経学部総合政策学科卒。大学時代は環境NGOの活動に従事、また休学してバンクーバーでワーホリを経験。卒業後、電機メーカーで5年間営業を勤め、会社を退職して青年海外協力隊としてマダガスカルで活動中。

沿岸部に来たら…♪

中央高地（標高1400m）に住んでいる私にとって、海拔0mのタマタブの街は暑くてたまらない。全く乗り気ではなかったけど、人生一度くらいは…と思ってやってみた編み込み。頭皮に風が当たるとこんなに涼しいのかと感動しました！写真のマダムは美容師さんではなく雑貨屋の店員さんです（笑）



日本祭り IN タマタブ

～生活改善についての展示と改良かまど作り～

マダガスカル第二の都市であり、最大の港町でもあるタマタブで日本文化や隊員活動を紹介するお祭りを行いました。私は「生活改善活動」の紹介担当として、タマタブの活動事例はもちろん、アンズズルベの事例も展示し紹介しました。日本では多くの人知っている「カイゼン」活動。この概念を伝えるのは私は苦手ですが、当日スタッフとして協力してくれた農業学校（隊員の配属先）の先生と学生さんが上手く説明してくれました。また今回は農業学校の先生が改良かまど作りのデモンストレーションを実施し、説明だけになりがちな生活改善活動紹介を具体物で示せたことは良かったです。



マダガスカルのリゾート セント・マリー島

～美味しい海の幸と絶海の孤島～

日本祭りの後は休暇をもらってセント・マリー島へ。タマタブからバス4時間（国道は穴だらけ！）、船2時間を乗り継いでやっと到着。島の周囲を巡ったり、離島に行く時は写真①のような木の船で移動します。少し距離がある時はエンジンが積まれた木の船で移動します。（ちなみに船頭の彼らは船を借りて商売をしています。エンジンがある船とエンジンなし船の賃貸料は10倍以上の開きがあるので、私たちの運賃にも反映されます。）今回の滞在で訪れた中で一番のオススメはサブル島（île aux Sables）。砂浜しかない本当に小さな島ですが、島の先端まで行くと幅が狭く写真②のように両側に波打ち際が見られます。潜ると魚も見ることができます。何よりも、何ものにも邪魔をされずのんびりとした時間を過ごすことができます。



セント・マリー滞在中の食事は海の幸

に限ります！写真③はタコのココナッツソース、写真④は蟹です。タコのココナッツソースはどこのレストランにも置いてあるので食べ比べをしても良いかも知れません。（私は一度ハズレを引きました*笑）



今回は閑散期（雨季）で宿泊施設も貸し切り状態でしたが、繁忙期（乾季）には多くの人が訪れ、クジラも見ることができるそうです♪

タマタブコレクション ～国際女性の日～

日本ではあまり有名ではありませんが去る 3 月 8 日は国際女性デー。マダガスカルでは祝日に指定されていて、女性のみ仕事を休みできます。タマタブでは様々な団体の女性が、仕立てた服やランバ（布）に身を包み、町中を行進。それぞれの個性に溢れた衣装の一部をご紹介します！



<仕立て編> 鮮やかな布で、それぞれのデザイン。丈の長さもそれぞれの好みで♪



<ランバ（布）編> 柄も撒き方も人それぞれ。一番右の写真は日本の商社の現地スタッフの方です。



<仕立てたの？既製品？> パンツスタイル（一番左）もあり。左から 3 枚目は病院関係者。

